

第 25 回 International Complement Workshop に参加して

水野正司

名古屋大学大学院医学系研究科 腎不全総合治療学寄附講座

来る 2014 年 9 月 14 日から 18 日までリオ・デ・ジャネイロのコカパマビーチに面した Winsor Atlantica hotel で、第 25 回 International Complement Workshop (ICW) が開催されました。日本からは、私の知る限りでは、北は旭川医科大学から若宮伸隆先生、福島から藤田貞三先生、関根英治先生、高橋実先生、名古屋から私、水野と伊藤功先生、大阪から井上徳光先生が、途中から木下タロウ先生夫妻が駆けつけられ、私の計算が間違っていなければ、合計 9 名が参加されました。日本からの発表もいくつかあり、福島県立医大の高橋実先生が oral presentation に選ばれ、藤田貞三先生が、座長を務められました。

ブラジル、というところとは覚悟していましたが、実際、地球の中心に対して日本の正反対の場所に位置していて、日本から地理的に一番遠い都市といってもおかしくありません。というわけで、今回、学会参加にあたり、滞在の 4 泊に対して往復の移動に 5 日間を要し、時差に体が慣れる前に再び飛行機に搭乗しなければならず、やっぱり大変でした。しかし、学会自体は至れりつくせりで、とても楽しく充実していました。今回、大阪府立成人病センター 井上徳光先生からのご依頼で、会を通して私の感じたままに学会記を綴ってみました。

リオは直前にワールドカップが開催され、その直前には暴力騒ぎもあり、治安はどうなのかと心配していました。しかし、訪れてみると、予想していたよりは穏やかでした。学会会場周辺、特にビーチ沿

いの道沿いには、派出所がいくつも見られ、パトカーも頻りに周辺をパトロールしている様な印象でした。ただ、少しビーチ沿いから外れると、バス停には複数の警官が詰めていて、日本とは大分異なる雰囲気でした。言葉も英語の通じる場所は少なく、おそらくポルトガル語と思われる言葉が飛び交っていました。



(opening reception にて↑)

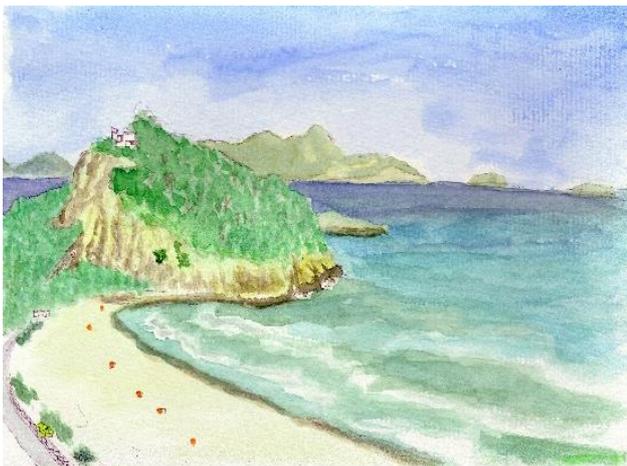


(opening reception にて若宮会長と
Dr Tambourgi↑)

学会初日の日中は、恒例により学生や若い先生対象の teaching day があったようですが、どんな雰囲気

気なのか、実際に参加した先生と話したことが無いので、残念ながらお知らせすることはできません。もっとも、我々がホテルに到着してチェックインが完了したころには、ほとんど終了していたようですが……。初日の夜はオープニングセレモニーが会場のホテルで開催されました。ひたすら飲んだ記憶しかないのですが、カクテルがおいしかったことと、一年ぶりに顔を合わせることができて、とても懐かしかった先生方とお話できました（何を話していたのか、残念ながら酔っていてあまり記憶がありません……）。

会場のホテルはビーチに面しているため、部屋からの眺めはすばらしかったです。

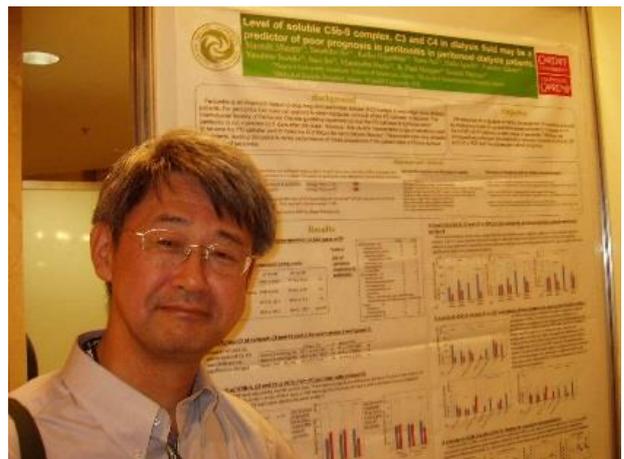


(滞在ホテルの部屋から見た夜景↑ by Mizuno M)

学会周囲の雰囲気はこのくらいにして、本題の学会ですが、演題を開催直前の8月下旬まで募集していたとは思えないくらい充実していました（ref.1）。特に最近の傾向として **Translational research** を目指している研究室が増えており、より臨床に近づけた研究が意識されているのですが、これは、私たち実臨床に従事しているものとしては、とても興味深いものであります。

臨床に関連した話題としては、補体制御蛋白と腎疾患、アナフィラトキシンと敗血症に関わるものが

多く、特に **C5a** の二面性を示した報告が複数出ていたのは興味深かったです。私は現在腹膜透析のユニットで腹膜透析医療の普及と諸問題の解決を研究の主体としている関係で、最近では腹膜透析への補体系の関与を研究の中心としており、今回、私は、腹膜透析関連腹膜炎の予後と補体関連蛋白測定についてポスター発表の機会を頂きました。



(ポスターセッション I にて↑)

口演では、福島県立医大の高橋実先生が、**3MC** 症候群に関わる分子としても注目を浴びている **MASP** について、**MASP-3** が **D** 因子の活性化に重要な変換酵素になっていること、**MASP1/3** 欠損マウスが **3MC** 症候群に類似した異常を示すことから、ヒトとマウスは同様に **MASP1/3** 機能を果たしていることを発表されていました。



(口演中の高橋実先生↑)

ヒトの疾患との関連のある興味深い発表であったと思います。また、高橋先生の口演のセッションでは、藤田貞三先生が、Morgan BP 先生と座長として ICW に貢献されていました。



(口演中の高橋実先生と座長の藤田貞三先生↑)

今回の ICW 開催前に、International complement society (ICS) で取りまとめた学術用語の統一化についての意見を求めるメールが ICS 学会員宛に回っていたと思いますが、その結果の用語集が、ICS と European complement network に支持され、今回の ICW の抄録集に掲載されました (ref.2)。内容については、色々な議論はあると思われるが、基本的にこの用語集に沿って学術用語を使うことをリコメンドしています。また、補体系測定標準化委員会では、C3, C4, CH50 の測定は安定しているものの、その他の測定は結構施設間の違いがあることが判明しており、補体に関わる臨床検査について、まだまだ世界で標準化への道のりは遠い様に思われました。

第3日目の午後は学会主催の Sightseeing があり、3 台のバスに分乗して "Sugarloaf Mountain" へ出かけました。かつてこのロープウェイは、あの有名な映画 007 ロジャー・ムーア主演の「ムーンレイカー」の撮影に使用されたこともあります。当日のお天気は残念ながら曇りで、晴れていれば見えるはずのシンボルのキリスト像を見ることはできませんでした。



しかし、ロープウェイを並ぶ列も内部も、山頂に上がってからも見渡す限り学会の参加証を首からぶら下げているヒト、ヒト、ヒト・・・でちょっと不思議な感じでした。



(Gala Dinner の様子↑)

その後、"late Clube de Rio de Janeiro" で開催された Gala Dinner では、Award の受けられた方たちの発表もあり、最近の ICW では良く見られるようになったダンスパーティーで盛り上がり、毛夜中の

1 時過ぎまでパーティーは続きました。日本から参加された先生方は一つのテーブルにまとまって楽しいひと時を過ごせたのではないかと思います。

そして、最終日の午前中一杯、発表が続きました。次回開催の第 26 回 International Complement Workshop は日本の金沢で開催されることになりました。最終日の午後には、そのプレビューのプレゼンテーションは藤田禎三先生により行われました。



学会開催日程が書かれているプレゼン用カードやしおりも配られました。プレゼンテーションの時間はわずか 15 分程度でしたが、スライド、ビデオと駆使され、魅力的な内容であったと思います。ちなみにプレゼン用ファイルの編集には、井上先生が奮闘されたとお聞きしております。金沢は、関西国際空港からは空港特急「はるか」と北陸本線の特急「雷鳥」「サンダーバード」の乗り継ぎで容易に訪れることが可能であり、来年、北陸新幹線が金沢まで開通することにより東京からの旅が容易となり、また、韓国のインチョン国際空港から金沢の小松空港に直行便もある、ということで、利便はまずまず保っている場所での開催が可能です。さらに、金沢が小京都とも呼ばれていることから、家族連れでの来日が多くなることが予想されます。京都での開催以来の記念すべき日本での ICW 開催なので、この機会に、日本からは是非数多くの演題の発表を行うことができるように、会員の皆様には、今から準備を始めていただくと良いのではないかと思います。



【文献】

- 1) ICW 抄録集 *Mol Immunol.* 61:210-292 (2014)
- 2) Kemper C, et al. *Mol Immunol.* 61:56-58 (2014)